

まだまだある、初めてのこと

静岡でヤツテみよう

周辺

本栖湖

漕艇者は、頸髄損傷により下半身麻痺



ひまわり通信

Vol.10 2022.9.

“どんなに重い障害があっても地域で共に生きる社会”を目指して

発行：特定非営利活動法人 ひまわり事業団
静岡障害者自立生活センター

〒422-8006 静岡市駿河区曲金 5-4-58
TEL : 054-288-6068 FAX : 054-287-4922
E-mail : himawari@scil.jp HP : <https://www.scil.jp>



障害を持つメンバーが、今まで経験したことのない

初めてにチャレンジする企画、

「静岡でヤッテみよう！」の第2弾。



好評だった前号の「競輪」に続いて、今回は「車いすでカヌーにチャレンジ！」です。

8月はじめのある暑い日、ひまわり事業団チャレンジ部隊は富士山の麓、本栖湖に足を踏み入れました。

本栖湖はご存じのとおり、富士山の麓に点在する富士五湖のひとつであり、5つの湖の中でも最も水深が深く、水の透明度が高いことで有名です。

そうそう、あの1000円札の裏に描かれている「逆さ富士」の湖が本栖湖です。

また、本栖湖は、カヌーはもとより釣りやワインディングサーフィン、最近流行りのサップボード（立ったまま乗るサーフボード状のカヌー）といった自然の中のアクティビティが盛んなことでも有名です。

さてここで、
今回のチャレンジ部隊の
メンバーを簡単に
紹介しておきましょう。



ひまわり事業団チャレンジ部隊の4名は、午前11時に本栖湖のほとりに集結すると、さっそくカヌーを膨らませる作業に取り掛かりました。

OKUが持参したカヌーは、インフレータブルカヌーという空気で膨らませるタイプのもの。

「な~んだ、ただのゴムボートじゃん…」

…と言ってしまえば、実に味気ないのですが、これが結構便利なシロモノなんです。

時々でっかいカヌーを車の屋根に固定して走って

いる車を見かけることありませんか？

屋根に括り付けたり、それを降ろしたりするだけ

でたいへんな作業ですよね。
その点、インフレータブルカヌーは、空気を抜いてしまえば折りたたんで専用の袋にコンパクトに収納できてしまうので、持ち運びはとっても簡単。ちょっと無理すれば自転車でも運べちゃいます。もちろん使わない時は部屋の片隅に置いておくだけなので場所をとりません（アパート住まいでもOK）。

では、これからインフレータブルカヌーを組み立てる過程を公開！



↑60cm大の袋に收まり、
こんなにコンパクト



インフレータブルカヌー本体(手前)と中敷(奥)、それぞれに空気を入れていきます。1分程度で完成です。



さて、カヌーを膨らませると
いよいよ進水式です。



車いすに乗った状態の大川隊長
を水際まで移動し、二人がかりでカ
ヌーに移乗させました。

インフレータブルカヌーは空気の層で出来ているため、床もクッションが効いていて幸いにも褥瘡（じょくそう）の心配は少ないようです。

大川隊長、最初は2人乗りカヌーの前部に乗ってみましたが、イマイチ安定が悪いということで、後部に移動。どうやらこっちの方がいいみたいです。

撮影担当のサンダは木陰で待機。一方、釣り担当のリュウはここでカヌー隊と分かれて、ひとり昼メシのオカズ調達へと出かけて行きました。



OKUが前部に乗船して、
さあいよいよ出航！



夏休みということもあり、湖畔には水遊びをする家族連れや、サップボードを楽しむ若者たちで賑わいを見せています。



そんな人たちの間を縫うようにして、二人の乗ったカヌーはユルユルと進んでいきました。

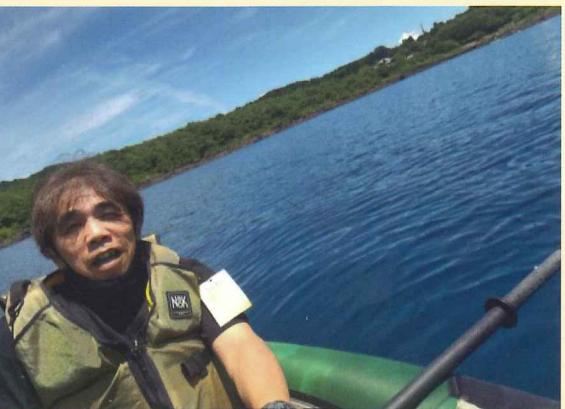
大川隊長は、生まれて初めてのカヌーだけあって、表情が硬く少し緊張気味の様子。

もちろん隊長は、沈する（カヌー用語で“転覆する”）こと覚悟でライフジャケットを着こみ、着替えまで用意していました。

一方 OKU は、隊長が落水しないか心配で、時折振り向きながら慎重にパドルを漕ぎます。

そんなカンジで、最初はおそるおそる前進してい

たカヌーですが、次第に慣れてくると、OKU のパドルさばきも軽快になり、気が付いてみたら、二人のカヌーはすっかり沖まで来ていました。



機関誌作成会議の時、「やっぱり何か派手にいこう！」だの「普段できないようなことやっていこう！」だの、散々盛り上がって「そうだ！OKUさん簡易カヌー持ってるよね？カヌー乗りに行こう！」と決まった…ワケだが、何故かカヌー体験する当事者は自分になってしまった。盛り上がって企画を言いたい放題言っていて、チャレンジャーは若手の当事者にと高をくくっていたら、企画会議メンバーからまさかの「いやいや、そこは発案者の大川さんやってよ」の声が（汗） 「えエッ!!俺!?俺、頸損になってから水に潜るのが…」「大丈夫大丈夫、大川さん沖縄でダイビングもやったんでしょう?」「いや、水が怖いんだよー…」というわけで、そんな心の叫びもむなしく、今回の「静岡でヤッテみよう！本栖湖カヌー体験」は私、大川に決まった。そして気が付けば本栖湖の畔、目の前には嬉々として簡易カヌーに空気を入れるOKUさん。着々と膨らんでいくカヌー。もう行くしかない。それまで、本栖湖までの道中も動搖をおくびにも見せず務めて平静を装ってきたけど、内心は、超一ピッタリ（笑）

意を決して乗り込み、OKUさんと共に湖面へ漕ぎ出す…するとどうだ。想像以上にカヌーは安定しているし、水は澄んでるし、湖面は開放的だし、なんといってもカヌーの上から見渡す景色→目線の高さ、湖面からの湖岸、見渡す限りの青空が、なんと気持ちいいんだ！水面をオールで漕ぐので、そこには車椅子利用とか健常者とか関係ない、同じ高さの目線で湖面を進んでいく。もうすっかりハマリ、二人で爆漕ぎ。あっという間に湖の奥の方まで行っていた。振り返って湖岸を見たとき、頸損になってからこんな景色を見られるとは想像もしてなかったなあ…と、改めて実感、感動したりしてた。その後、カヌーから降りるには岸まで戻らなきやならないことに気付き、感動も吹っ飛び、又必死に漕いで岸に着くころにはもうヘロヘロ（笑）

翌日、上腕二頭筋、三頭筋が尋常じゃない筋肉痛だったのは当然の話（笑）

大川速巳

帰路は、OKU がパドルを大川隊長にチェンジ！
大川隊長、はじめてのパドリングです。
最初は慣れないパドルさばきでしたが、だんだん
とサマになってきました。
「大川さん、頑張って～！」
岸まであと十数メートルのところで、撮影担当サ

ナダの歓声が聞こえてきました。
カメラを意識したのか、パドルを握る大川隊長の
手に俄然力がみなぎり始めました。
ここで OKU が何故かいきなりザブン！と湖に飛び
込み、残された大川隊長は、ひとり黙々とパドルを
漕いだのでした。

ランチの魚は…。

ところで、上陸後の楽しみは、やっぱり昼メシです。
3人は木陰に座っておにぎりを頬張り始めました。

えっ？それで釣りの方はどうなったかって？

しばらくして釣り担当のリュウが無念そうな表情
で肩を落として帰ってきました。

どうやら「坊主」（一匹も釣れなかつたこと）だつ
たようです。

※実際の所、写真のように1匹釣れたようですが、
食べられる大きさではなかった為、リリースして
しまったそうです。

せっかく魚を焼く網と塩コショウまで用意してき
たのに！（怒）残念。



文：奥村譲



■駐車場までのアプローチ（上図①）

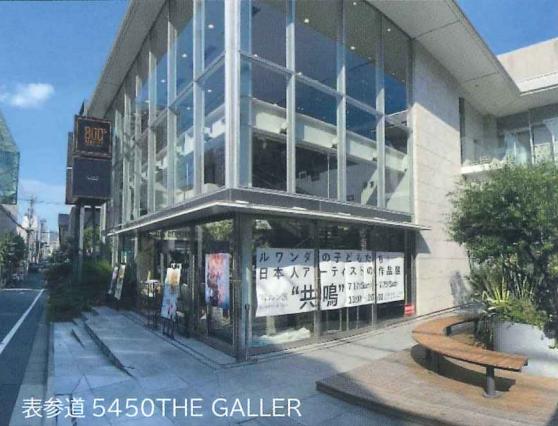
富士宮から国道 139 号線を河口湖方面へ北上し、本栖信号を左折。400mほど走ったところの「本陣つかさ」を左折後すぐに本栖湖畔駐車場があります。20台ほど駐車可能（無料）。

■トイレ（上図②）

駐車場から通りを挟んで反対側に、チップ制トイレが
あります。スロープあり。
車いすで使用可能な広いト
イレあり（男女共用）。

■湖畔までのアプローチ（上図③）

駐車場から湖畔まで 100mほど。階段や
大きな段差は無く、車いすでアプローチで
きます。ただし未舗装で、溶岩が混ざった
小石がゴツゴツとした歩き辛い道です
ので、介助者のサポートが必要です。



「写ルン族 Exhibition Tour “共鳴”表参道展 5450 THE GALLERY」

「写ルン族」とは、香川智彦氏が代表を務める、株式会社 Brave EGGS ルワンダの子どもたち支援のプロジェクトです。

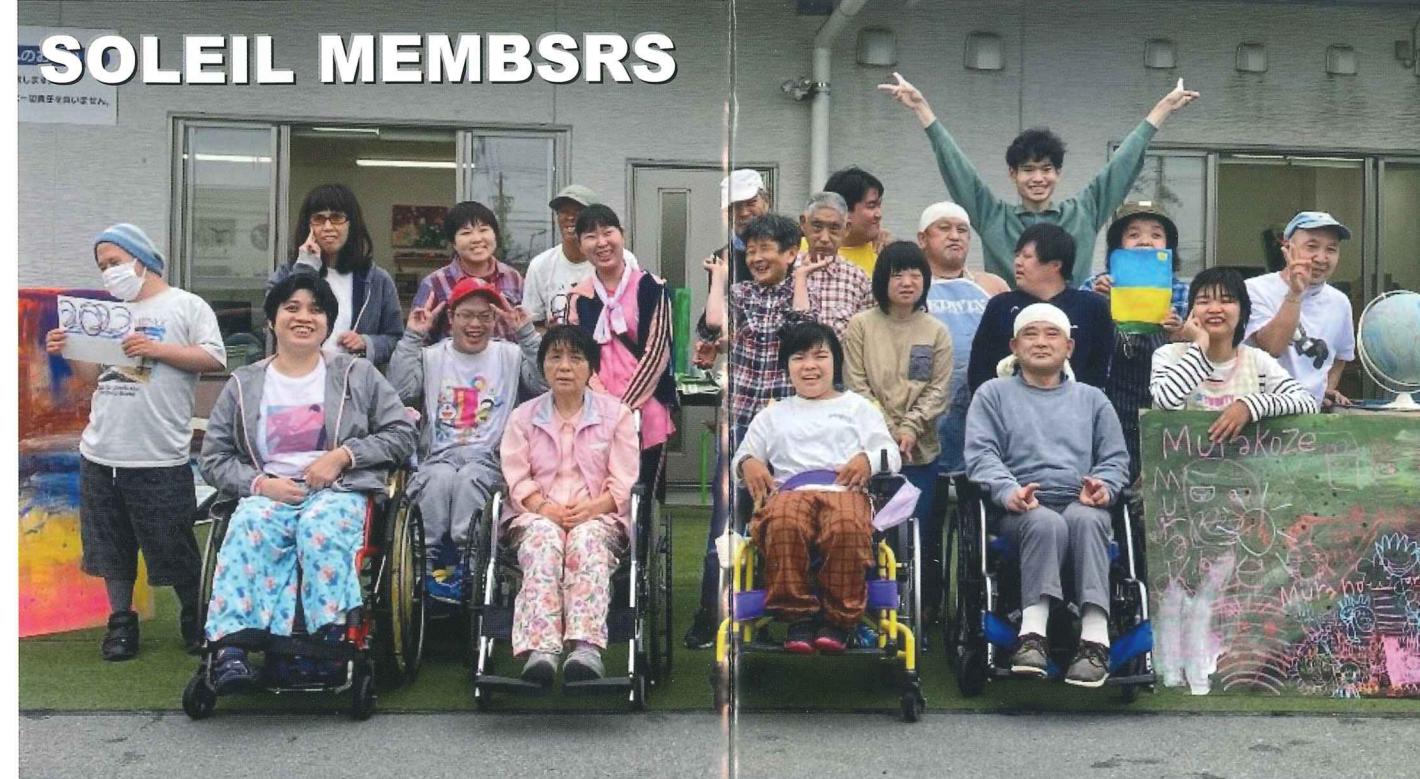
今回で 6 回目を迎える「共鳴」は、ルワンダの子どもたちが撮った写真の展示販売と、写真をもとに国内外のアーティストが制作したコラボアートの展示販売を行い、その収益の 50%をルワンダの学校の運営費に、50%をアーティストに還元する仕組みになっています。—詳しくは「写ルン族」で検索してみてください—

そして、「共鳴」初の東京開催に、ご縁があつて出展させていただくことになりました。

みらーと東部地区担当の伊藤さんよりお話をいたいたい時は、「写真をモチーフに絵を描くのは、それいゆのスタイルとはちょっと違うかも・・・」との思いが横切ったのですが、「ルワンダ」という、国名は聞いたことがあるものの、全く知らなかった国に関わるのはなんだか面白そう・・・と思い、挑戦することになりました。

伊藤さんと何度も打ち合わせをし、とにかくそれいゆのメンバーにルワンダを知ってもらう日を作りましょうとなり、急きょ「ルワンダワークショップ」を行うことになりました。

伊藤さんが用意してくださった世界地図やルワンダの景色、食べ物などのスライドを見てクイズを行ったり、アフリカのダンスを流してみんなで一緒に踊ってみたり、パチカという楽器に挑戦したり・・・。



それいゆのメンバーのすごいところは、あっという間に自分のものにして楽しんでしまうということ。

初めて見るダンスや楽器で大盛り上がり！

なんだかよくわからないけど楽しんじゃおう！！みたいな。

お昼をはさんで、午後はオープンアトリエ。アフリカの音楽をかけながら、皆、思い思いに描きます。



写真を見ながら紙に描く人。

大きな板に色を塗る人。

地球儀にペンキを塗る人。

ルワンダ語の挨拶を描いてみる人。

部屋の中で座って、外で、踊りながら・・・

もちろん、大地君は数字を黙々と。

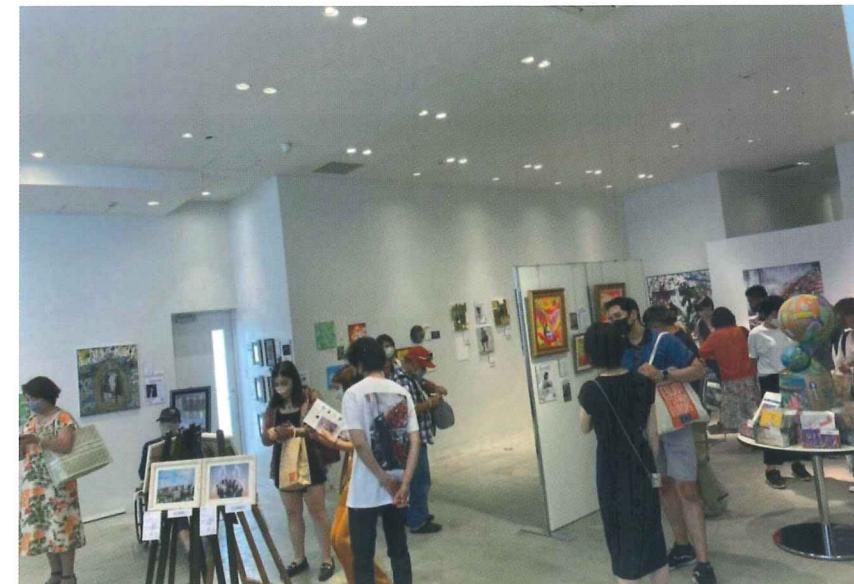
でも、どこかみんなの中にルワンダを感じながら。

そんな楽しさが、7月17日(日)から7月23日(土)まで、東京・南青山の「5450THE GALLERY」での展示でも、作品から溢れ出していました。

会期中、大勢の人がギャラリーに足を運んでくださり、展示を見た多くの方にそれいゆのアート活動に興味を持っていただくことができました。

代表の香川さんをはじめ、写ルン族スタッフの皆さん、5450THE GALLERY のオーナー様、準備から片付けまで本当にありがとうございました。

文：鈴木梨可



ギャラリー内展示の様子 キャプションもカッコよく作っていただきました

ルワンダワークショップ 午前の様子

何だかわからないけど楽しんじゃってます

ルワンダワークショップ 午後の様子 思い思いに描きます

なな～らの夏休み

今月の外出は、夏休みバージョン！
外出制限のないコロナ禍での外出！
いざ！出発！！



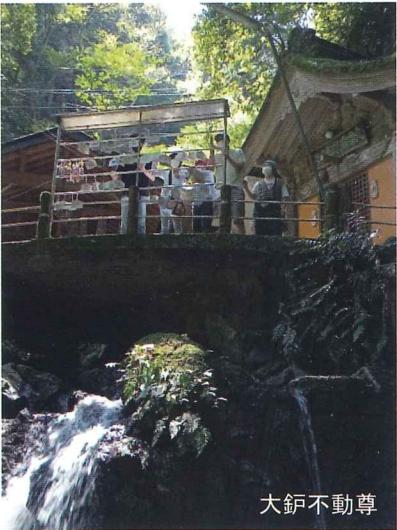
広野海浜公園

8月も密を避け、2グループに分かれてお出かけを楽しみました！

「こっこ庵の工場見学に行ってみたい」という意見があったので、出発。しかし、新型コロナウイルスの感染対策で工場見学は中止・・・。

天気も良かったため、行先を海へ変更。海を見に、広野海浜公園まで足を延ばしました。しかし、やはり暑い！日陰スペースも少ないため、長時間の滞在は難しいと、次の行先を悩み・・・涼しいところは滝！とのことで、丸子にある大鉢不動尊(おおだたらふどうそん)へ再出発。ここは「ジブリっぽいスポット」とSNSで密かに話題にもなっており、美しく、幻想的な風景を見て、少し涼しく、気持ちの良い時間を過ごすことができました。

文：清水かおり



大鉢不動尊

お盆休みの最後の夜はみんなで花火を楽しみました



流しそうめん大会 in さにい

皆さんは夏の風物詩と聞いて、何を思い浮かべますか？
花火やスイカ、肝試しなど様々な物があると思いますが、生活介護さにいでは流しそうめんをやろう！
ということになりました。



まず最初に、どうやってそうめんを流そうかという話になり、そこで今回はおもちゃ屋で売っている一風変わった物に目をつけたのです。それはプールにあるウォータースライダーを彷彿とさせるデザインで、そこにそうめんを流して皆で食べる！という物でした。早速、利用者さん達と買いに行き、組み立てて試運転。思った以上の面白い動きに、それを見て、誰よりも私がはしゃいでしまいました（笑）。

いざ本番を迎え、まずは皆で具材や薬味の準備です。今回は錦糸卵、きゅうり、カニカマ、しょうがと定番の物からせっかくならトマトやフルーツを流してみようという事になり準備しました。全ての準備を終え、いよいよ流しそうめん大会の開始！利用者さんは一人ずつ順番に支援員さんの介助を受けながら、流れてくるそうめんをキャッチ！みんなキャッチするのがとても上手

く、目を見張るものがありました。

流しそうめんがあまりにも楽しかったので、何度も挑戦する人や、変わり種のフルーツをキャッチしたりした時は歓声が沸いていました（笑）。

各自、思い思いに具材や薬味を入れそうめんをほおばりご満悦。たくさんあったそうめんも全てもうござりませぬ。今回の企画は大成功でした。

気心の知れた仲間たちと満喫する夏。良い思い出になったのではないかと思います。

文：吉岡佑真



寄付物品の募集

生活介護さにいでは、年に2~3回バザーを開催しています。衣類や生活雑貨品等の寄付物品を募集しています。ご協力いただける方はご連絡ください。 054-287-5001

障害者権利条約 第一回日本政府審査

障害者権利条約の第1回目となる締約国審査が2022年8月22日（月）と23日（火）の2日間、ジュネーブ（スイス）の国連本部ジュネーブ事務局にて行われました。本来は日本の審査は2020年に行われるはずでしたが、世界的なコロナ禍により延期となり、いよいよ今年開催となりました。

国連の障害者権利条約に日本が批准（2014年）してから8年が経ち、条約の内容や理念を日本国内でどう実現しているかを障害者権利委員会により審査（建設的対話）されます。日本からは、審査に向かう政府公人だけでなく、日本障害フォーラム（JDF）や全国自立生活センター協議会（JIL）、DPI日本会議などから総勢100名を超える傍聴団（オブザーバー）が現地に向かいます（傍聴団100名以上は過去最高人数のようです）。

今回の対日審査では、「脱施設・病院、地域移行」と「インクルーシブ教育」が重要なポイントになります。「脱施設・病院、地域移行」に関しては、日本は一向に脱施設・病院は進んでいない（身体障害者約7万人、知的障害者約12万人が施設入所している）現状にあります。

特に、日本の精神科病院からの脱病院・地域移行はほとんど進んでおらず、約27万人が現在も入院している現状です（※世界の20～25%の精神科病床が日本にあり、これは世界一の病床数である）。入院期間も、一年以上の入院が約17万人、50年以上入院している人も1000人以上いる現状で、日本の精神科病院の平均入院日数も世界一、世界最悪のレベルです。

また、「インクルーシブ教育」に関しても、義務教育課程の全児童の人数は少子化の影響もあり減少しているにもかかわらず、特別支援学校に通う児童は約7.2万人（2007年比で1.2倍）、特別支援学級には23.6万人（2007年比で2.1倍）など、日本は一向に進まないどころか条約に逆行しているような状況です。

2021年にバリアフリー法が改正され、公立小中学校のバリアフリー化が義務付けられるなど画期的な法整備がなされました。ハード面の法律が改正されただけではなかなか進みません。そのうえソフト面（インクルーシブ社会・教育への理解や障害の社会モデルの視点の獲得）とまでなると、1979年以来の法制度による分離教育でつくられた社会の現状では、インクルーシブ社会・教育への理解など一向に進むはずはありません。

今回の対日審査において、日本から現地に赴いた傍聴団が現地で委員に対し、パラレルレポート※を基にしてロビー活動やブリーフィングを行い、審査（建設的対話）本番に向けて、当事者団体からの意見を伝えます。

なぜそのようなロビー活動やブリーフィングを行うかというと、それは、最終的に出される「総括所見」がより良いものになるために行うものです。

そして、この委員会から出される総括所見が、今後の日本国内における障害者運動の指針、障害者政策の指針となるからです。このように、大注目の障害者権利条約締約国審査（建設的対話）ですが、審査の流れを次ページに紹介しておきます。

みなさん、委員会から出される総括所見、注目しましょう！

※パラレルレポートは総括所見に至る審査プロセスのなかで、各国の民間団体が「委員会」に提出する独自の報告のこと



私個人の意見としては、「障害者権利条約の完全実施」という大前提のうえで見れば、今回の対日審査で出される「総括所見」で、権利委員会からどのようなものが示されるか大注目だ。日本の国内はもとより、自身の身近なところでも、まだまだ”障害者が他の者との平等を基礎として”という理念の浸透はなされていない。

そもそも、この理念が浸透しているのであれば、脱施設・病院もインクルーシブ教育も数段進んでいるはずだし、アクセシビリティに関する、様々な合理的配慮が進んでいるはずである。しかし、未だ、障害を抱える子が地域の学校に通うことだったり、地域の高校に進学を希望しそれを実現していくことは、障害を持つ本人の努力、家族や支援者の頑張りに視点が置かれ称賛される報道が多く、受け入れる学校側の理解も同時に

称賛的に報道されることがままある。

つまり、障害者が「他の者との平等を基礎として」学校へ通うことは、現在の社会の中ではまだまだすごく特別なことなのだ。それは、障害者の側がすごく頑張らないことであり、社会通念が「障害の医療モデル」が根強いことを意味している。

日本が条約に批准して迎えた東京オリンピック・パラリンピックが一つの契機となり、バリアフリーやアクセシビリティを世界基準にという動きができ、意識や環境が変わるきっかけとなつたと思う。今回の対日審査では、権利委員会からかなり厳しい意見が出ていると聞く。9月に出される総括所見をもとに、これからもインクルーシブ社会の実現に向けて運動・活動していきたい。

文：大川速巳

審査のながれ

1 締約国報告の提出

締約国が報告を委員会に提出することが審査の出発点です。日本は2016年6月に報告を提出。

2 事前質問事項の作成過程とパラレルレポート

日本の事前質問事項に向けては、日本障害フォーラム（JDF）と日本弁護士連合会（日弁連）が包括的なパラレルレポートを基に、委員会は勧告である総括所見草案はすでに作成されていて、建設的対話を経て、総括所見は最終的に採択。

3 事前質問事項への締約国回答とパラレルレポート

事前質問事項への締約国からの回答と、総括所見に向けた第2弾のパラレルレポートを基に、委員会は勧告である総括所見草案はすでに作成されていて、建設的対話を経て、総括所見は最終的に採択。

4 建設的対話と総括所見

締約国と委員会の建設的対話と呼ばれる質問と回答を経て、委員会は勧告である総括所見を採択。建設的対話が開催される以前に、総括所見草案はすでに作成されていて、建設的対話を経て、総括所見は最終的に採択。



・ひまわり事業団と地域をつなぐ人・

静岡県立大学短期大学部
社会福祉学科 准教授

えばら かつゆき
江原 勝幸 さん

東京都出身
1961年11月生まれ 60歳

今回は県立大学短期大学部、通称「県短」の江原先生にお話を伺いました。

1980年代から国内高齢者施設等での勤務経験を経て、1997年にアメリカ西海岸地区最古の公立大学であるサンノゼ州立大学にてソーシャルワークの修士学位を取得。帰国後は大学等の教育機関に教員や研究員として勤められ、2004年4月から静岡県立大学 短期大学部（所在地：駿河区小鹿）、社会福祉学科の准教授として勤務。ひまわり事業団にも、学生として江原先生の講義を受けた者は少なくない。

インタビュアー：小久江寛・劉瑛哲

■（劉）お世話になっています。今日はよろしくお願ひ致します。まず、江原先生の研究されているテーマについて教えてください。

アメリカの大学に在籍していた頃は高齢者虐待の研究などをしていました。まだ日本では高齢者虐待に関する法律ができる前ですね。その後は現在まで、福祉防災に関する研究をしています。

■（劉）「福祉防災」というと？

災害時に支援の網からこぼれがちな障害者、高齢者や子どもなど（要配慮者）に焦点を当てて、誰も取り残さない防災を目指す研究を行っています。

■（劉）江原先生と当法人の関わりというと、どんなものがあるでしょうか。

法人職員にゲストスピーカーとして授業に来ていただいたり、学生の中からボランティアに参加させていただいたりしていますね。それから、防災で言うとグループホーム「ななーら」さんを中心に、活動に参加していただいているよね。

分たちでやろう」と請負い、地域の取り組みにシフトしました。

■（劉）なるほど。では先生の研究のゴール、目指ところはどこでしょうか。

防災も重要ですが、ある意味それは一つの切り口、きっかけでいいといいます。あまり内容にとらわれる必要はなく、それぞれの地域で福祉について考えて、活動する入口になってくれれば良い。「人口が多かったり、若い人が多い地域では福祉が定着しにくい」なんて安易に言う向きもありますが、この人口の多い西豊田で活動が定着してくれれば、よそでも出来るんじゃないかと。

西豊田の特色として、地域住民の「居場所」が今3か所ある。公民館やこういった居場所が、何かあった時の拠点になってくれるのではと思っています。普段は人が集まっておしゃべりしているような感じなんだけど、例えば「今日〇〇さん来てないね、どうしたんだろう。」と家にいってみたら、その人が倒れているのを見ついた、という実例もあった。居場所は「平時の繋がり、普段の地域福祉」に直結する。そういう地域住民の繋がりが、防災活動をきっかけに広がっていって欲しいですね。

■（小久江）私自身が以前、防災の取り組みとして自宅避難を検討した時に、江原先生に見ていただいて、アドバイスもいただいた。すごく身近な印象を抱きました。それから、キャンプと防災を絡めたイベント、きっかけづくりの視点が素晴らしいと感心しました。

「あそぼうさい」という、遊びながら防災に触れてもらうお子さん達向けの企画ですね。ちょうど明日（取材日翌日 8月17日水曜）、県民の日の企画でゼミの学生たちと「防災ランチづくり」のイベントをやります。子ども達が力セ

ットコンロを使って、簡単に身近なもので防災食を作りながら食べるというので、昨年はお子様ランチを作った。今年は和風ランチです。当初は児童養護施設の子など9人くらいの予定で余裕だと思っていたら、最終的に30人来ることになって大変なことになったなーと（笑）。まあ作るのは難しいので、何とかなります（笑）。

■（小久江）障害当事者としては、災害時の自助努力も大切だと思っています。身体障害者はとっさに避難行動といつても難しい。質問なんですが、最近大雨も多いですが、水害の時の障害者の避難行動はどうするのが良いでしょうか。

基本的には垂直避難（上の階への避難）だと思います。雨が降っていると、夜間なんかは避難場所に避難するのも危険ですから。2階まで水が来るような水害ではどうしようもない面もありますが、一般的に2階であれば助かることが多い。それから、自助という意味ではなるべく前もって、早めの避難を心掛ける事でしょうか。小久江さんのお家のように土砂崩れの心配がある場合でも、土砂は1階に流れてくるので、やはり垂直避難。それから、早めに知人に避難の手助けを頼むとか、最近ではホテルに避難する例もありますね。

■（小久江）ありがとうございます。ではもう一つ質問なのですが、障害当事者が防災に対して、普段から何を心掛けておくべきなのか、教えてください。

そうですね…。一つは、先程小久江さんもおっしゃっていましたが、自助として出来ることは沢山あると思います。他人任せにせずに、例えば防災訓練に参加して、災害時を想定して準備しておくことは重要だと思います。そして、自助だけでは難しい部分は共助、僕の言葉で言うと「地域の福祉力」つまり先程もお話しした「平時の福祉力」が活きてくる。

やってあげる、してもらう、ではなく、互いに気に掛け合ったり声を掛け合ったりする「お互い様」の関係が出来れば、自然と地域の防災力は上がります。ですから、障害当事者の人も地域の中で関係を作っていくことが非常に重要だと思います。

先日、清水特別支援学校のPTAで講演させていただいたんですが、若い人保護者たちの中にすごく積極的に動いてくれる人たちがいて、少し防災の面で前に進みそうな動きが出てきました。そうやって、一人では出来ないことでも集まって、例えばPTAのグループで学校や地域に働きかけていくなんてことも、とても大切だと思います。

■（劉）活動の課題や今後の展開についてどのように考えていますか。

二つあって、一つはこの西豊田学区で、現在の活動をどうやって、より浸透させていくかということ。もう一つは、活動をどうやって他の地域に広めていくのか、という点だと思います。

ただ、これらについては昨年、活動をDVDにまとめて、日本地域福祉学会から『地域福祉優秀実践賞』という賞をもらって、大きな評価をしていただきました。他にも、『月刊福祉』という雑誌で防災特集を組むということで、ちょうど記事を書き上げた所です。そんな展開があって、興味を持つてくれる方も増えています。今年の防災訓練には、初めて自治会が主体的に参加してくれることになって、とても楽しみにしています。



2019年 西豊田地区宿泊防災訓練の様子

■（劉）わたし達障害福祉関係者が、福祉防災や地域福祉を進めるうえで出来ることは、どんなことがあるでしょうか。

まず、昨年から市町の努力義務になった、「災害時個別避難計画」を活用して欲しい。計画を作ることが目的にならないように、一人ひとりの災害時リスクをしっかりアセスメントして、優先順位をつけて実施する。同時に、リスクが高くない人に対しても、「セルフプラン」作成の支援を行って、障害当事者や地域福祉側の防災意識を高めていくことが、いま必要とされていると思います。

■（小久江）先生、今日はありがとうございました。最後に、ひまわり事業団が「お客様」ではなく、主体的に地域に関わっていくために求められるものは何があるか、アドバイスをいただけますか。

例えば、今年度から「西豊田支え合い実行委員会」の会合に、会議室を貸していただいている。地域の人が事務所の中に入る、それって普通はなかなか無いことで、それだけでも大分違うし、実際とても助かっている。関わりの大きなきっかけですよね。

他にもバザーなんかをやられたり、ボランティアやアルバイトでうちの学生を受け入れていただきたり、地域との関わりを模索して、地道に活動してくれている。答えはないけど、そういう小さな関わりの積み重ねを続けていくことが大切なんだと思います。



今年度の「西豊田学区地域ささえあい防災訓練」は、
2022年12月4日(日) 9:00～
西豊田小学校にて 開催されます。
※詳しい情報は、決定次第当法人HPに掲載予定。

3年ぶりに「ひまフェス」を開催することに致しました。

ご来場にあたり、コロナ感染防止の観点から会場内ではマスク着用、食べる事は禁止とし、ご購入された食べ物はお持ち帰りください。なお、水分摂取に関しては制限致しません。

ご協力の程、宜しくお願いします。

特定非営利活動法人

ひまわり事業団

ひまフェス

2022

アート展示、車イス体験、ボッチャゲーム
ヨーヨー釣り、缶バッヂ制作、
コーヒー、シフォン、和菓子
カレー、手芸品等

どなたでも、お気軽にお立ち寄りください。

開催
日時

10月29日(土)
11:00～14:00 ※雨天開催

会場

ひまわり事業団 1階
駐車場スペース



新型コロナ感染拡大の状況により、中止する事があります。開催の可否はホームページでお知らせします。

【お問い合わせ】ひまわり事業団 054-288-6068



とおるのトーク

還暦過ぎてからというもの、夜中に目が覚めることが多くなった。睡眠時無呼吸症候群でもあるのだが。泊まりのヘルパーがいて、ちゃんと呼吸器着ければそれ程のこともないが、独りで寝るときって呼吸器は着けなくて、ただただ予約したテレビを観つつ眠りを待つのみである。首尾よく寝たとしても、夜中の3時に目が覚めて朝まで徒然なるまま心にうつりゆくよしなしごとを考える。こういう時って大抵ろくなこと考えてないんだな。

これって中途覚醒と言われてるものだよね。ドラックストアに行くと、ドリエル・ネルノダ・レムウェル・眠る力・グリナなどいろんなサプリで改善を謳っているものでしょ。ぼくと同じ悩みを持つ人って多いんですね。日本も高齢化した今、加齢による悩み、眠りに効くと謳うサプリはこれからも出るだろうな。とはいっても、眠れないのが悩みの種というのも日本って平和だな。

とも言ってはいられない。この夏からの物価高はびっくりだよ。例えばパンなど数%とはいって毎日になると大きい。電気も同じく、温暖化のせいで年々暑くなる昨今、この暑さでエアコンなしではちょっと居られない。控えめの設定で使ってるが、中部電力の請求額にヒヤヒヤもんだ。ガソリンが高いからと自転車にしようかと言ってたヘルパーもいたよ。

それでも、所得が増えたりしたらまだましたが、所得は増えず年金も減額が毎年になった。ぼくは蓄えを取り崩してやっとの生活だよ。蓄えがある分ありがたいとは思う。感謝しなきやあな、と両親を想う。

「電力が足りない」と電力ひっ迫注意報が6月の終わりに出た。節電意識も広まり今もニュース番組をスタジオの照明を落として放送している。暗いとも思わず見ている、というより十分だと思う。大体が今までが、電気使い過ぎてたんじゃないかな?さりとて、計画停電をちらつかせての電気が足りない発言で、原発の再稼働を言い出す短絡思考が目立つ。なんか意図的なものを感じる、原発再稼働させて再生可能エネルギー潰して得をするのは誰だろうね。この類の話は、ちょっと疑う、ぼくである。政官財渋山いるじゃないですか?

安倍氏の国葬にも、大きな疑問を感じる。というか絶対反対する。このコラムが出るころ、どうなっているかはわからない。しかし、在任期間のウソの答弁。モリカケ桜に有事法制、共謀罪、このような人間を神格化しちゃあだめだよ、岸田。日本が右傾化しないことを祈ってコラムを終わる。

文：橋本徹

障害を持つ人の生活を支援する
ヘルパー
募集中
お気軽に
お電話ください
054-287-1230

【編集後記】

ひまわり事業団の機関誌が「ひまわり通信」としてリニューアルして、早いもので10回目となりました。

このところ、チャレンジ企画の取材という名のもと遊びに出かけながらも、職場では「仕事です」と言い切つたりして、何だかんだと楽しみながら機関誌づくりに励んでいます。私自身、久しぶりに取材に同行しましたが、室内大好きな私としては、太陽の照りつける中、何時間も外で過ごすことは苦行のような仕事?となりました。

次回からは今まで通り、職場で皆の原稿を待ち続けたいと思います。

文：真田妥世子